

医学書テキストのたとえる表現 (2)

—接尾辞「一状」の特徴



2022

本多 由美子 (一橋大学・国立国語研究所) / 三枝 令子 (元一橋大学)

はじめに

- 目的：日本の医師国家試験を目指す外国人学習者のための医学教材の開発
- たとえる表現：「どのような状態・様子であるか」を表す。
「莓状血管腫」「網目状の紅斑」
- たとえる表現を扱った先行研究は「ような」「様(ヨウ)」のみ
→①医学書テキストにおける接尾辞「状」の使用実態
②BCCWJとの比較 ③接尾辞「様」との比較

先行研究

- 接尾辞「状」：名詞に付いて、...のような形である、...に似たようすである、などの意を表す。『デジタル大辞典』
- 医学や医療に関する用語では接辞の頻度が高い。(三枝他2020、内山他2018)

データ・調査手順

- 医学書データ 総語数 4,510,648語
①『今日の治療指針2018年版』 ④『今日の小児治療指針 第16版』
②『今日の診断指針 第7版』 ⑤『イヤートート 2020内科・外科編』
③『新臨床内科学 第9版』
- 調査手順
①形態素解析の結果から語彙素が「状」かつ品詞が「接尾辞-名詞的-一般」のデータを抽出する。
②前接する1語(以下、「前接語」とする)が補助記号、空白、未知語のデータおよび後接する1語(以下、「後接語」とする)が未知語のデータを除外する
③目視で「状」が「書状」を表す例および誤解析を除外する。
→「状」延べ1,921語

前接語の特徴

延べ語数1,921語、異なり語数366語

表1 接尾辞「状」の前接語

順位	語彙素	頻度	割合	例
1	S	85	4.4%	S状結腸78
2	粥	64	3.3%	粥状硬化31、粥状動脈硬化22
3	嚢胞	55	2.9%	嚢胞状に~13
3	顆粒	55	2.9%	顆粒状の~10、顆粒状沈着10
5	海綿	50	2.6%	海綿状血管腫25
6	結節	48	2.5%	結節状の~12
6	索	48	2.5%	索状物15
8	尾	42	2.2%	尾状核29
9	乳頭	35	1.8%	乳頭状腫瘍5
10	線	34	1.8%	線状の~7
11	泡沫	32	1.7%	泡沫状の~10
12	巢	30	1.6%	巢状分節(性~)7

- 「S」「顆粒」「線」など：形そのものを表すもの
- 「索」「尾」「巢」など：形に特徴のあるもの
- 「粥」「海綿」など：質的な特徴を想起させるもの
- 「嚢胞」「結節」：部位が変化した形を表す語
- 「嚢胞」：内腔に液体や泥状物を含む袋のような形の構造物
- 外来語の前接語も同様の傾向が見られた。

後接語の特徴

延べ語数1,921語、異なり語数207語

表2 後接語の品詞

順位	品詞	頻度	割合
1	名詞	1,042	54.3%
2	助詞	616	32.1%
3	補助記号	147	7.7%
4	接尾辞	53	2.8%
5	接続詞	31	1.6%
6	接頭辞	18	0.9%
7	助動詞	8	0.4%
8	記号	4	0.2%
9	形状詞	1	0.1%
9	空白	1	0.1%
合計		1,921	100.0%

表3 接尾辞「状」の後接語

語彙素	頻度	割合
の	303	15.8%
に	198	10.3%
血管	83	4.3%
結腸	78	4.1%
,	61	3.2%
陰影	58	3.0%
硬化	35	1.8%
と	35	1.8%
を	34	1.8%
核	33	1.7%
突起	33	1.7%
)	32	1.7%

表4 接尾辞「状」に後接する名詞(N=1,042)

語彙素	頻度	例
血管	83	海綿状血管腫25 莓状血管腫16
結腸	78	S状結腸78
陰影	58	ガラス状陰影12 腫瘤状陰影8
硬化	35	粥状硬化31
突起	33	鞘状突起21 針状突起6
核	33	尾状核29
動脈	24	動脈硬化22
変化	20	変化が~4
拡張	19	拡張を~5

- 助詞「の」→「の」を介した名詞接続
- 助詞「に」→「に」を介してさらに動詞に接続する。
(に拡張する19例、になる16例)
- 後接する名詞：「陰影」「突起」「変化」「拡張」
→形や変化を表す一般語
- 「~状の[名詞]」：名詞に疾患名を示す名詞はなく、すべて形のある物や変化

【並列用法】

(3)表面は不均一で、乳頭状、結節状、ポリープ状など様々な形態の腫瘤形成がみられる。
(診断_産科・婦人科の症候)

【独立用法】

(4)初期：発熱(階段状)(イヤートート_感染症)

BCCWJの書籍サンプルとの比較

- 「書籍・書籍」「図書館・書籍」のデータから接尾辞「状」を検索
- NDC分類記号別に調整頻度を求め、医学書テキストと比較
- 「状」は医学において多用される語であることが示唆される。

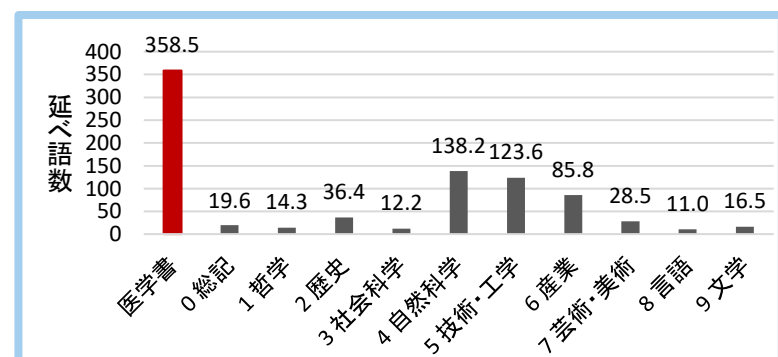


図1 ジャンル別「状」の語数(100万語あたり)

接尾辞「様(ヨウ)」との比較

- 医学書のテキストの「様」のデータ 「状」と同様の手順で抽出

【前接語】延べ1,340語、異なり394語

- 「状」のみ：延べ1,433語(74.6%) 異なり292語(79.8%)
- 「様」のみ：延べ1,055語(78.7%) 異なり320語(81.2%)
- 「状」と「様」の前接語は全体的には使い分けられる傾向
- 「状」形を表す語
- 「様」具体的な疾患名/視覚的に特徴が捉えられないもの

【後接語】延べ1,340語、異なり186語

- 「様」のほうが名詞が後接する割合が高い
- 動詞を修飾する用法や並列用法が少ない
- 「~様(の)症状」 226例と最も多い
- 「~状(の)症状」 0例
- 「様」：全体的なありさまを示す語
- 「状」：あくまで具体的な形を形容するために使われる語

表10 「状」のみに見られた前接語(N=1,433)

順位	語彙素	頻度
1	粥	64
2	顆粒	55
3	海綿	50
4	索	48
5	尾	42
6	乳頭	35
7	線	34
8	泡沫	32
9	巢	30
10	嚢	27

表11 「様」のみに見られた前接語(N=1,055)

語彙素	頻度
症	73
感冒	46
腺腫	40
インフルエンザ	37
病	30
アナフィラキシー	23
喘息	22
インシュリン	19
満月	16
イヌボエ	15

表13 接尾辞「様」の後接語(N=1,340)

語彙素	頻度	割合
の	283	21.1%
症状	184	13.7%
顔貌	48	3.6%
に	45	3.4%
皮疹	37	2.8%
陰影	31	2.3%
変化	29	2.2%
物質	27	2.0%
病変	26	1.9%
発疹	24	1.8%

~状の：15.8%
~様の症状42例

~状に：10.3%

補助記号は上位に見られない

医学書テキストの「名詞-普通名詞-一般」における「状」

- 「名詞-普通名詞-一般」の語の中にも「状」を含む表現が見られる(「輪状」「斑状」など)
- 延べ4,563語、異なり62語(うち6割が「甲状腺」)
- その他、「帯」「輪」「点」「斑」「網」など形に特徴のあるもの
→接尾辞「状」の前接語の特徴と重なる。

まとめ

- 「状」の前接語：形そのものを表すもの、質的な様子も表す語、部位が変化した形を表す語が多い。
- 「状」の後接語：名詞が最も多いが、助詞「の」を介した名詞接続も少なくない。動詞修飾用法や並列用法も見られる。
- 「状」に直接名詞が接続する場合には体の部位のほか、形や変化を表す一般語が使われている。
- 「状」は医学において多用される語であることが示唆された。

5. 接尾辞「様(ヨウ)」との比較

「状」は形を表す語が多く用いられるのに対し、「様」の前接語には疾患名、後接語には「症状」のような全体の状態やありさまを表す語が多く見られ、用法の違いが観察された。

【参考文献】内山清子・岡照晃・東条佳奈・小野正子・山崎誠・相良かおる(2018)「実践医療用語の語構成要素抽出の試み」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3, pp.463-467./三枝令子・丸山岳彦・松下達彦・品川なごさ・稲田朋晃・山本一晃・石川和信・小林元・遠藤織枝・庵功雄(2020)『医学用語の収集と分類』『日本語教育』176, pp.34-47. 本研究はJSPS科研費JP18H00679の助成を受けたものです。